

令和5年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・座学と実技の授業を分けて行い、知識を技能に応用する経験をさせることができた。

(2) 課題

- ・より快適な暮らしを目指し、具体的な例を取り上げ実践していく。
- ・生活の自立に係わる様々な実習を取り入れ、基礎的な理解を図るとともに技能を身につけさせる。
- ・生活や技術についてより関心をもたせて、生活を充実向上するため課題を設定し、解決策を構想し、工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※技術家庭科では大田区学習効果測定を実施していない。

(2) 分析（観点別）

第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
もの作りについての意欲は高いが、技能面での知識は不足している。基礎基本から確認し、実践する必要がある。	日常生活に対する関心が不足しており、同時に知識も足りないため、生徒自身での判断や表現力に欠ける部分がある。	授業への関心はあるが、実生活での経験・実践が不足している。ものづくりについての意欲は高く、積極的に進めることができる。

第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ものづくりに対する関心や意欲はあるが、基礎基本が身につけてない部分も多く、基礎基本から確認し、実践する必要がある。	日常生活に対する関心が不足しており、同時に知識も足りないため、生徒自身での判断や表現力に欠ける部分があるが、やる気はある。	もの作りに関しては、技能レベルに個人差があるため、積極的に作業をする生徒、指示がないと進められない生徒がいる。

第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
全体的に実生活での経験が少ないため知識が不足している。総合的に判断し知識を技能に生かすことが苦手である。	日常生活のなかで、ものづくりの経験に乏しく、授業や課題の内容を日常生活と照らし合わせて考えられない生徒が多い。	作業そのものへの関心・意欲は感じられる、基礎基本的な学習がおろそかになりがちである。ちょっとしたつまずきにも乗り越えず、避けようとする生徒がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ものづくりなど様々な実習を繰り返し実施し、基礎・基本的な知識・技能を身につけさせる。	生徒自身の生活を振り返り、身につけた知識を日常生活で活用できるように考えさせ、より自立した快適な暮らしを目指していく。	日常生活の大切さを理解するために、また、より快適な暮らしのために、興味・関心をもてるように題材を工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
作品製作では、自分自信の作業のスピードを理解させ、見通しを持って作業を進めるよう促していく。わからない部分は生徒間での教え合いなど、関心を高めさせていく。	より快適な具体的な例を取り上げ、実践していく。学習したことがどのように日常生活に活かされているのか考え、生活の中で実践していくよう促す。	ものづくりに関しては非常に個人差があるため、実習を通して基礎基本を身につけていく。指示を待つだけでなく、自ら進んで作業を進める積極性を身につけさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ものづくりに関しては基本的な作業経験を繰り返し行う。また、どうすればうまくできるかという過程をしっかりとアドバイスし、早めにつまづきの発見を促す	生活の自立を目標とし、生活に直結した自分自身で体験できる部分に力点を置き、学習したことをどのように日常生活で活かすか、あるいはどのように活かされているかを考え実践できるように促す。	作品製作において、完成までの流れを提示し、見通しをもたせ意識付けをする。 生徒同士の意見交換を取り入れ、自身の生活に活かせるように取り組ませる。